

シンポジウム

# 都市と憂愁

## ——大正時代の文学と文化

モダン都市のなかで孤独と憂愁を抱えつつ、個人として生き始めた人びと。  
〈現代〉の起点ともいえる大正時代の文学と文化を考察する。

2019年1月24日（木）15：00～18：00

於 アゴラ・グローバル3F プロジェクトスペース  
（府中キャンパス）

登壇者：

ス セコン  
徐 載坤（韓国外国語大学）

「萩原朔太郎と大正モダニズム」

スティーブン・ドッド（ロンドン大学 SOAS）

「日本の政治運動としてのモダニズム

——梶井基次郎の場合」

柴田 勝二（東京外国語大学）

「美と生命の間——谷崎潤一郎の二面性」

司会：友常 勉（東京外国語大学）

発表言語：日本語  
入場無料／申込不要

